

全国高校選手権で激闘 光星高男子バスケット部



地震の影響で地元が暗い雰囲気の中、強豪校に勝利した八戸学院光星高男子バスケットボール部。2年の角谷光輝斗さん（中央）はさらなる飛躍を誓う＝29日、同校

八戸を勇気づける存在に

八戸市で最大震度6強を記録した地震で地域が対応に追われる中、全国高校選手権（ウインターカップ）に出場した八戸学院光星高男子バスケットボール部は、1回戦で四国王者・尽誠学園（香川）との激闘を制し、明るい話題を届けた。1年生から試合に絡むメンバーが多い「期待の世代」が中心となる新チームは2日から始動。その中核を担う2年生ガードの角谷光輝斗さん（17）＝市立白銀中出し＝は「チームを勝たせられる選手になりたい」と抱負を語り、コートを駆け回りながら地元を勇気づける存在へと飛躍を誓う。

（桑田友人）

飛躍誓う新チーム

昨年12月の地震で、同部では寮や体育館に被害はなかったものの、余震が相次ぐたびに学校生活に不安が広がった。その中でも「皆が変わらず練習に取り組めた」と角谷さん。日本一を目標に掲げるチームの一員として、バスケットに気持ちを集中させた。

迎えたウインターカップ初戦は開始早々に得意の3ポイントシュートで勢いをもちらすと、試合をコントロールするポイントガードの役割を果たした。

「青森県、八戸市の代表として、何としても勝利をつかみたかった」。3ポイント2本に2ポイント全4本成功の14得点と活躍し、勝利に貢献した。

1年の時から外角のシュート力を買われてメンバー入りし、今季のチームでは新たにボールの運び役としての重責も担った。

「最初はミスばかりして『やっていけないのか』と思っていたが、3年生が練習で進んでプレッシャーをかけてくれた」。上級生がいたからこそ成長を遂げられた2025年を振り返る。

ただ、ウインターカップは東北王者として臨んだ24年に1回戦敗退、ゲームキヤプテンを務めた25年は強豪の福岡第一に2回戦で敗れ、自身のブレイクの未熟さを痛感してきた。

最上級生としてチームを引っ張る立場となる26年。「個人でもチームとしてもまだまだ足りないところがある。リーダーシップを發揮し、一戦一戦しっかり勝っていきたい」。

責任感にあふれる若武者は同部史上初の8強入り、そして頂点を目指し、努力のわだちを刻んでいく。